



市指定文化財

東光寺の鰐口^{わにぐち}

白山郷土資料館に、かつて白山町川口上野^{かみの}の東光寺薬師堂に掛けられていた鰐口が保管されています。

鰐口は、社寺の軒先に掛かった鈴を扁平にしたような形の金属製の鳴具^{なりぐ}で、前につられた綱を振り動かしてこれを打ち鳴らします。側面の下半部が細長く開いていることから鰐口の名が付いたと言われています。この鰐口は鋳銅製で、直径28.2cm、肩厚6.5cm、上縁に懸垂のための耳が2つ付き、中央の撞座^{つきざ}には先のとがった星形のような八葉素弁^{はちようそべん}の蓮華文^{れんげもん}を鑄出^いしています。表には慶長4(1599)年の年号と願主・願文、裏には「江州栗本郡高野国松源七」の銘が刻まれています。

江州栗本郡高野は、近世に活躍した「辻村^{いもじ}鋳物師」の本拠地で、現在の滋賀県栗東市辻にあたります。辻村鋳物師の製品は、今も各地に伝わっていますが、この鰐口は、辻村鋳物師の名前が刻まれた製品としては、最も古いものとされています。

間近に見る鰐口は、ところどころにヒビ割れが走るものの、撞座あたりは擦れて今なお鈍い輝きを放っています。

(「広報津」平成21年11月1日号)

